

雲仙

Unzen

郷愁を誘うクラシックホテル

雲仙観光ホテル



上・天井高5m、約200畳の広さを誇るダイニングルーム。

下右・売店には「ウィリアム・モリス」のノートやアルバムも。下中・料理の基本は地産地消。前菜「手長海老のポシェ、ペにますのスマーク、野菜のアスピック」とメイン「長崎和牛ロースのパートブリック包み焼き デュクセルソース」。

下左・温泉浴室もクラシック。予約制の貸し切り家族風呂も。



開業から八二年が経ち、子ども頃に通っていたお客さまが、わが子の手を引いて再訪するといったことも、増えているのだそう。そんなとき、懐かしそうに思い出話をするゲストのためにも、改修は重ねても、創業当時の面影は残すようにしているといいます。そんな心遣いも嬉しい老舗ホテルで、この夏、ノスタルジーに浸ってみてはいかがでしょうか。

標高約七〇〇mの高原にあり、夏でも平均気温が二二度の雲仙は、昔から日本有数の避暑地として人々に親しまれてきました。一九三五(昭和十)年に誕生した「雲仙観光ホテル」は、外国人客の誘致と外貨獲得という国策のもと、当時全国に誕生した「観光ホテル」の第一号でした。

緑に囲まれたスイスシャレー様式の外観、玄関へと延びる石畳の長い道。檀さんも思わず「素敵ね」と歓声を上げたアプローチを進み、コンシエルジュに誘われて館内に入ると、アンティークの家具、唐草模様の照明、創業数年後から時を刻み続ける振り子時計……、すべてがクラシックで息をのみます。往時には類繁にダンスパーティーが催されていたというダイニングルームを見渡せば、優雅に踊る人々の姿が目につかび、タイムスリップしたかのような気分になります。

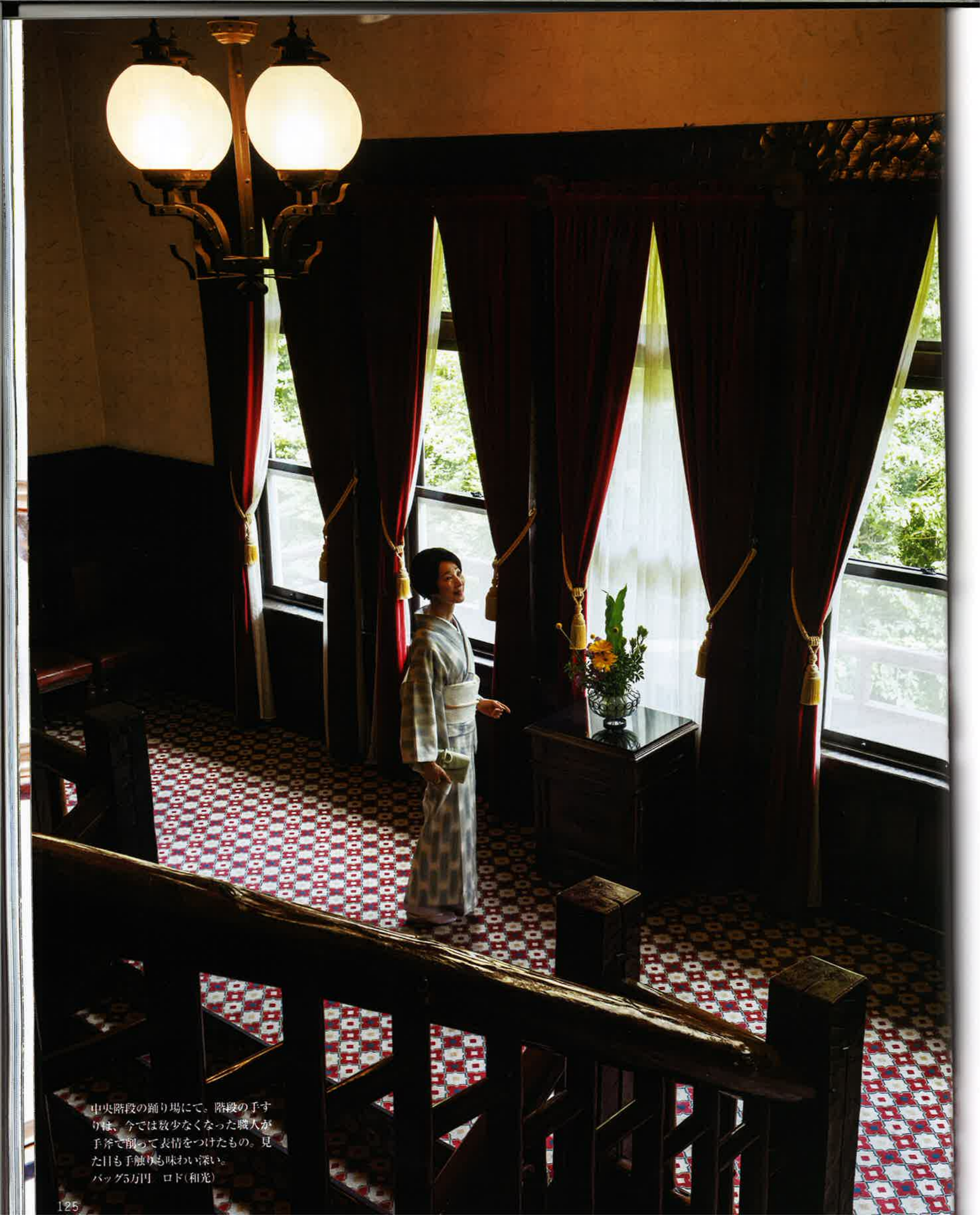
外観、玄関へと延びる石畳の長い道。檀さんも思わず「素敵ね」と歓声を上げたアプローチを進み、コンシエルジュに誘われて館内に入ると、アンティークの家具、唐草模様の照明、創業数年後から時を刻み続ける振り子時計……、すべてがクラシックで息をのみます。往時には類繁にダンスパーティーが催されていたというダイニングルームを見渡せば、優雅に踊る人々の姿が目につかび、タイムスリップしたかのような気分になります。

47平方mのオリエンタルツインルーム。ダークブラウンを基調としたインテリアとウィリアム・モリスの壁紙が調和した心地よい空間。

雲仙観光ホテル
 長崎県雲仙市小浜町雲仙320
 ☎0957(73)3263
 1室2名利用で1泊2食付き
 1名3万7800円～(税・サービス料込み、入湯税別)



明石ちぢみのきもの姿の檀さんは、高原のホテルによく似合う。バッグ5万8000円/カパフ(和光)



中央階段の踊り場にて。階段の手すりは、今では数少なくなった職人が手斧で削って表情をつけたもの。見た目も手触りも味わい深い。
バッグ5万円 ロド(和光)